

読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.9
2012.8

夏の終わりに
海水浴特集で
すいません

湘南の海水浴っていつからいつまでですか？イメージとしては海開きの7月1日頃から8月いっぱいでしょうか。でもそれって短くないですか？夏を勝手に定義してしまっているために、逃しているチャンスはないですか？ ——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

講師 茅ヶ崎海水浴場事業協同組合理事長

大久保義雄氏



片山 今日はこの会場「夏俱楽部」を、こちらにいらっしゃいます大久保さんに無料で提供していただきました。ありがとうございます。

大久保 私、茅ヶ崎海水浴場事業協同組合の理事長をしております。まだ理事長になりたてなので全ての事案にお答えできるか分かりませんが、よろしくお願いします。

片山 大久保さんは30年間も海の家を経営されています。30年前と比べて海水浴のお客さんや海の家の数とか、ぶっちゃけた話、今に比べてどれだけ儲かっていたのかなどぜひ今日、うかがいたいと思っていました。

大久保 海水浴客は年々減っています。特にここは海の家の前が駐車場なので、コンビニでジュースやおにぎりを買ってポリタンクを持って来て、そこでシャワーを浴びてしまうんです。ですから海水浴客も減っていますが、海の家の利用客はもっと減っていますね。

片山 昔ほど儲かってないということですか？

大久保 儲かってないですね。皆さんはひと夏で1年分ぐらい儲かるというイメージがあるかと思いますが、それは40、50年くらい前の話です。タライに氷とカルピス入れて紙コップを並べ100円、100円とやっていた方がたくさんいたそうです。僕がやり始めた頃にはすでに下降の一途でした。海が好きじゃないとできないですね。

片山 海の家をつくるのにいくらかかるのですか？

大久保 ここは普通の海の家の2つあります。普通は1軒70坪。ここで建物を建てるだけで200万かかります。その他に地代、組合費があるので300万。それと解体が入ってくるのでかなりの費用になりますね。

片山 よく言われるのが、一度海の家を持った人は既得権があり、毎年出していくすごく閉鎖的で一部の人間だけが儲けているだけじゃないかと。あるいは暴力団関係者が絡んでいるのではないか、という話を聞きます。話せる範囲で構いませんので、その実態をうかがいたいなと思います。

大久保 茅ヶ崎に在住し茅ヶ崎に税金を納めている方であること、あと組合員の保証人が1人と他もう1人保証人がいれば基本的には営業が出来る形です。理事会を通して総

今回フォーラム会場となった茅ヶ崎サザンビーチの海の家「夏俱楽部」



会後に承認されます。ただし既得権ではないですが、ここに金額が発生しています。100万で売るよとか200万で売るよとかそのようなものがあるので、なかなか思うようにいかないところがあるのではないかと思います。

片山 このビーチの海の家は10店舗ですが、お金を出します、ちゃんと営業しますということであれば11店舗目の許可を得ることは可能ということですか？

大久保 この海水浴場は横に200㍍しかないで、スペース的にいっぱいいいっぱいで難しいかなと思います。今のオーナーさんが誰か売りたいとか誰かが買いたいとかはあり得る。

片山 例えば企業なり飲食店なり、夏場2カ月だけこちらの方で店舗を出したいということで組合の方に申請など実際ありますか？

大久保 毎年毎年、電話はありますよ。出店させてもらえませんかと。ですが、この組合員の人たちは昔はこうだったので昔のままでいこうよという方が多く、なかなか新しいことを取りいれるのが難しいですね。どうしても保守的な部分が残ってしまい、若い世代と古い世代がうまくやっていくのが現状です。

片山 組合の中でようやく一定の方向性を見出したとしても、今度は行政との折衝がありますよね？

大久保 昨年から金、土、日、祝日は17時までの営業を19時までにしてもらいました。なぜ僕が19時まで営業させて下さいと言ったかというと、茅ヶ崎にはビアガーデ

湘南の快適な海水浴利用に向けて

2012年7月19日

第9回テーマ

海の家つてひと夏で1年分儲かる？それは40、50年前の話

ンがないんです。夕方、散歩している地元の方にビールでも1杯飲んでいきませんか？そういう感覚でやりたいなど。何年もかかりましたが、それはようやく変えることができた部分なのかなと思います。

片山 大久保さんが理事長として海の家の問題、課題だなと思うところをお聞かせ下さい。

大久保 まず一番変えていかないといけないのはお客様の呼び込みだと思います。とにかく各店、自分のところに入れようと必死になります。それを僕はお客様にお店を選んでもらうような海の家をつくりたいと思っています。

僕の理想の海の家は各1人ずつオーナーさんがいるのではなくて、1つの建物を作り株式会社でやっていくことです。その中には複数の海の家のほか、茅ヶ崎の物産やお土産売り場を設けたり、観光協会の事務所があつたり、ライフセーバーの事務所があつたり。共同経営で海の家をやっているところが日本には1つもなかったというのでぜひ、茅ヶ崎でやりたいという思いがあったのですが、先ほど話したようにやはり保守的な人がいてこれがなかなかできないです。お店の中にジャグジーがあって、海から上がってジャグジーに入って帰る。ちょっとハワイアン的に本当にリゾートっぽくつくってみたいなと思っています。

片山 これは実際、理事会で提案されたのですか？他のオーナーさんは何と言っていましたか？

大久保 理事会でも総会でも何度も何度も提案してきました。ただやはり保守的な考え方の人がいてなかなか…。

参加者 逗子や鎌倉の海の家はおしゃれなので、やはり東京のお客さんはそちらに行くのではないですか？

大久保 鎌倉は大きなスポンサーが入っていますので、ここに比べるとマルが1つ違うのです。行政の方は「茅ヶ崎はローカルで良い」と言うのですが、サザンビーチは名前が先行てしまい、海の家はイメージに置いていかれています。江の島は分かるけど藤沢市は分からないと聞いたことがあります。ここサザンビーチもそうで、名前と海の家がマッチングしていないのは大きな問題です。

片山 ではそういった海の家のあり方について、別の角度からも考えてみたいと思います。今日は見ていただいた通り「大物」に来ていたいしています。まずは加藤さん、鈴木さんに自己紹介をいただきたいと思います。

講師 日本ライフセービング協会神奈川県支部長
株式会社サーフフレジェンド代表取締役

加藤 道夫氏 海を考える

加藤 神奈川県のライフセービング連盟という、ライフセーバーを統括しているNPO団体の代表をしております。ちょっと複雑な経歴といいますか、海水浴場におもいきり絡んでまして、20年前は横浜市の職員でした。八景島の手前に横浜海の公園という

のがあるんですが、ここを開設担当をやっていました。当時、横浜には海水浴ができる砂浜が1つもなかったんです。それを16年ぶりに復活させようというものです。なんせ16年ぶりですから横浜には海水浴場を管理していくノウハウがありませんでしたので、藤沢で日本赤十字社水上安全法講習会を受けたのがライフセービングとの出会いです。それから最終的には脱サラしまして、今は「波伝説」また「海快晴」という海関係の気象情報を提供しています。

講師 茅ヶ崎マリンスポーツ連盟相談役
ゴッデスインターナショナル
株式会社代表取締役

鈴木 正氏



鈴木 私はこの色を見てもわかるよううにサーファーですね。今月70歳になりましたが、まだ若い者には負けたくない、昨日も波乗りしましたし今日もやりました。波があればだいたい毎日やります。この写真は私が27歳の時、ハワイのハレイワっていうところですね。これは私がシェイプしているところです（同上）。プレット、弾丸という名前で、ボトムにチャンネルが入っています。ターンをするとキュンといくんですよ。それは快感のあるサーフボードですね。サーフィンは最高です。今日はお年の方もおられます、ぜひサーフィンを始めていただきたいと思います。

片山 ゴッデスの社長でみなさんご存知かと思いますが、サザンビーチの海を知り尽くしているお一人です。そういった意味で鈴木さん、マリンスポーツを通じた視線で今、茅ヶ崎の海岸が抱えている課題と今後どういった海水浴場を目指していくべきなのかをお話しいただけますか。

鈴木 海は花火やっちゃいけない、夜何時になったら騒いちゃいけない。これじゃダメだと思うんですよ。海は青春の一時期の大切な場所なんです。花火やったっていいじゃないですか。そう思いませんか？ディスコタイムがあるもいいじゃないですか。この海の家で青春を発散させなければどこで発散するんですか。

だから海の家を経営される方にお願いしたいのは、もっと若者が爆発できるような場所をつくってください。海をもっともっと明るく元気にしなかったら若い人は来ませんよ。今暗い海でピューっと花火が飛んでいますよね。もっと騒いでいいと思います。静かすぎませんか？夏のこんないい日を。そうでしょう？

大久保 僕もそうしたいです。ですが、ちょっと音出すだけで、音楽をボーンと流すだけで1つ2つクレームが来るんですね、役所に。そのクレームを役所は大切にしちゃう。

片山 加藤さん、青春の場と住民の苦情。難しい問題ですけれど、元行政マンとしてどうお考えになりますか？

加藤 条件付きだと思います。基本的には住民の方が認めるような営業形態というのが前提だと思います。海の家の夜営業というのは本来の海水浴とは違う営業形態なので、一部の海水浴場ではそれがクラブ化して問題になっている。行政がきちんと音頭をとっていろんな意見を聞いて、





と変わりました。

それからこれは私、力説したいのですが、期間の問題。ハワイに行かれたことのある方はわかるかもしれません、冬のハワイって肌寒いですよね？オーストラリアのゴールドコーストは夏が7ヶ月あると言われていますが、春と秋は結構寒いです。彼らからすると日本の5月の連休の日差しは夏です。10月の体育の日などは晴れれば最高の季節ですよ。

最終的には住民、県民が決めていくことだと思います。

片山 鈴木さん、いろいろ行政の壁があるとは思うのですが、大久保さんと組めば実現できるんじゃないんですか？

鈴木 なせば成るでしょ。ずっと周りの住民に対して騒音出しているわけじゃない。夏のごく2ヶ月間ですよ。

鵠沼海岸に海の家が何軒あると思いますか？あの広いビーチに。何軒かの海の家のためにですよ、江の島から鵠沼の引地川の間はサーフィンができないんですよ。おかしいと思いませんか？海の中で遊泳されている方はほんのわずかです。それが海の家という1つの利権ですね。それでサーファーはすっと引地川の方に押し出されて、ごった煮状態ですよ。1日にどれだけ事故が起こっていると思いませんか。衝突事故、けが人、失明した人もいますよ。

行政の問題なんですか？我々が情熱もってなせばできないことはないでしょ？僕そう思うんですよ。

今、海で若者たちが狂ったように踊っているような光景はどこにもないです。あるとしたら逗子ですよ。キマグレンが育った場所。それはなぜかというと、私の後輩の眞壁というものが市から委託を受けてあの浜を全部仕切っているからです。民間人ですよ。海の家の出店を決めるのも彼です。すべて民間の人がやっているからできるんです。

茅ヶ崎はあそこと何が違うんだっていいますと、違ひなんて何もありません。今日、茅ヶ崎にこれだけ多くの人が集まってくれたんですよ。何とかしましょうよ。時間もあまりないですからこのくらいにしますが、後でどんでもない爆弾企画を発表しますから、ぜひ期待していてください。

片山 加藤さんはライフセーバーであり、オーストラリアや海外のビーチに非常に詳しい方です。海の家といった特定のものに限るのではなく、湘南地域をマリンリゾートティへ発展させていくというプランを提案されています。

加藤 私は湘南をもっと国際的な観光地にしたいという願いがあります。例えば中国や韓国、ロシアなど日本より緯度の高い国から見れば、湘南は冬でも暖かいんです。彼らはマリンスポーツをやりにワイキキやゴールドコーストに行きますが、フルスーツさえ着れば日本でも体験できるんです。日本の湘南に行ってサーフィンやった。鎌倉にも行ったよ。箱根で温泉つかったよ。それって帰国して自慢できるんです。そういう都市にしたいなと思います。

あとイメージの共有ですね。私は湘南というものを二宮から葉山までワイドにくくっています。ここを例えばカラー やデザインを統一する。先ほど逗子の眞壁さんの話がありましたが、彼の成功の1つはパラソルを統一したことです、赤一色に。それだけでも逗子海岸のイメージがガラッ

日差しが強くなくて、まだ水温が高いから。

夏のとらえ方を短くするがゆえに海の家も無理して設備投資して回収しなければいけないので、夜も頑張らなきゃいけない。それが住民にとっての迷惑にもなり得る。悪循環ですね。

湘南の場合だと、5月1日から10月、10月末はちょっと肌寒いかもしれません、私は11月までは毎年泳いでいましたので全く問題ないはずです。

下の写真は稲村ヶ崎から見た夕日ですが、湘南って本当に美しいです。世界的に見ても。私もサーフィンの関係で世界中で波乗りしているんですが、帰ってくるたび湘南って素晴らしいと思う。食文化も素晴らしいんですけど、特に湘南のこの景色、これに甘えてはいけないし、10年後、20年後、これを生かした形でビーチカルチャーを育てたいなと思います。

ほかにも海水浴場でのアルコールの摂取や海水浴客とサーファーのゾーニングの適正化、ライフガードの育成、権限強化など課題はありますが、そういう点をやっていけば湘南はビーチリゾートとしてもっとお金が落ちるようになると思います。税収を上げて雇用を創出する。市民の力で変えていくというのが湘南らしい提案、改革になるんじゃないかなと願っていますし、私もその一部を微力ながらお手伝いできればと思っています。

片山 世界中でサーフィンをしている加藤さんが、湘南が世界で一番景色がきれいで食も良いというのはうれしいですね。

鈴木さん、先ほど「今日はみなさんが驚く提案を持ってきている」というお話がありましたか？

鈴木 では、話させていただきます！この絵=次頁=をご覧になると一目瞭然、何てバカなやつと思われるかもしれません、私は十数年前からこの構想を持っていま



稲村ヶ崎から見た夕陽

して、70歳になつてもう幾ばくもないので、今やらずいつやるんだ、と。これ、私が勝手に名付けたんですが、『烏帽子海上遊歩道』、と言います。簡単に言いますと、茅ヶ崎漁港と平島、烏帽子岩を橋で結んじゃおうということです。子供たちがびよびよ遠足というか1.8kmしかないですから。およその見積りまで取りました。たいした額じゃないですよ。例えばこの茅ヶ崎漁港は今から相当昔、18億円かかりました。それからバシフィックホテルの前のヘッドランド、Tバーともいいますね。あれは12億です。それに比べてもね、片山さん、今日は何言ってもいいんでしょ？皆さん、良いですか？（笑）

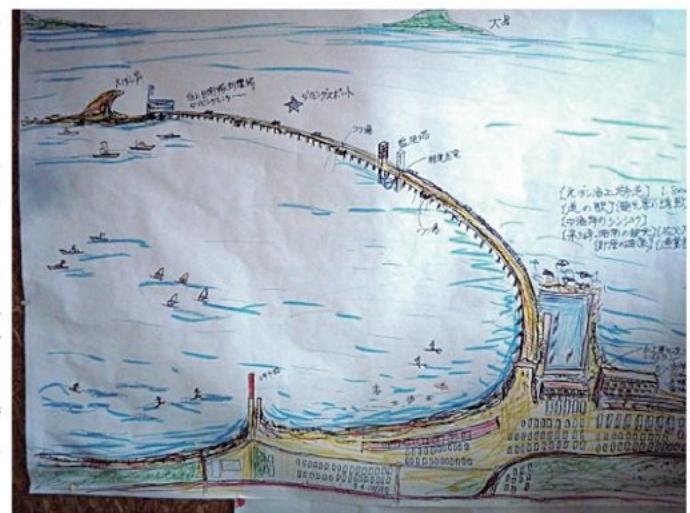
これが大体15億ですよ。15億！橋脚の間隔が10㍍、橋脚の太さは直径が約1㍍ですね。で、水深が12㍍ですから船から打ち込む工法なんです。

それともう1つの大きな意味合いはですね、沖合にこの橋脚がたくさんできることによって、大きなうねりをある程度は軽減してくれるはずなんです。そうすると今はもっていかれてしまっているビーチの砂がだいぶ堆積するようになって、遠浅のビーチになる。そうすると台風のパワーが沖合で崩れますので、そこで力が弱まるんですね。だから侵食しない。茅ヶ崎は手前が深いですから、そういう意味合いもこれは持っているんですよ。

鳥帽子にはちょっとした海洋センターを作って、そこに海上自衛隊の訓練基地を作る。それはこの予算を引き出す為の手段でもあります。国防というものを絡ませるとお金は意外と出やすい。密入国船をチェックする監視塔ですとかね。大義名分で良いんです。これを当て込めば、観光誘致ができるんですよ。海には漁業権がありますので、漁師さんたちの生活を保障しなければいけないです。そのためにお土産だとかレストランや色々なカルチャーを入れ込んだ海洋センターがあるといいですね。その中で通年性の海の家とかね。人が来れば通年化して良いわけです。

片山 ありがとうございます。それでは最後に加藤さんと大久保さんからひと言いただいて締めの言葉をしたいと思います。

加藤 正直ですね、海水浴場の組合の方というのはライフセーバーと相反するところがあるので心配しました。それからサーフィン界の大御所の鈴木さんと初めてお話し



15億円で鳥居子岩に橋を架けちゃおう

するので、これも心配していましたが、今日は非常に勉強させていただきました。大久保さんからは、呼び込みをしないというのは私はライフセービングを30年位やっていますけれども、こういうことを言った組合長は初めてです。それと鈴木さんの提案にありましたピア方式というのは、カリフォルニアでもピアを作ったことによって良いサンドバーができている。それによって上は観光客が来る、左側はサーフゾーン、右側は釣りだったりとゾーニングもできている。ぜひ取り入れるべきだと思います。

大久保 鈴木さんも加藤さんも僕も海が好きなんだよ、と。好きじゃなきゃこういうことはできないし、こういうことは言えないんだよ、という風に思いました。海を良くしたい、それと海の家も良くしていきたい、お客様も呼びたい。魅力のあるビーチをつくっていきたいなっていう風に思っています。今後もご協力お願いします。

片山 難しいのは自然を守るという視点と、観光で経済を活性化させるという相反する課題があって、さらに防災も含めた3つをどうやって結びつけていくか、です。じゃあ誰が決めるのかっていいたらここに住んでいる住民、我々が決めていくことだと思います。それが今まででは偏った利益団体だけが自分たちの主張をしていたところがあったという風に思います。今後もこういった場で話し合えば、きっとそれが湘南らしいビーチカルチャーみたいのものにながっていく、そういう風に思いました。

第11回湘南ミニフォーラムのご案内

テーマ「湘南の安全安心と放射能対策」

▼日 時 9月19日(水) 19:00~20:50

▼場所 藤沢産業センター8階「情報ラウンジ」

「放射能」を取り上げます

未曾有の大災害から1年5ヶ月。海辺に住む私たちにとって避けては通れない災禍の1つ、「津波」については1月の第3回ミニフォーラムで取り上げました。そして東日本大震災がもたらしたもう1つの災禍が「放射能」。

白蘭記

岡部 英男氏（神奈川県衛生研究所所長）

松原 広美氏（環境NGO Surfrider Foundation Japan事務局長）

海老名健太朗氏（茅ヶ崎市議会議員）

あるのか。自分自身を、そして子供たちを守るにはどうすればよいのか。お互いに学び、考えましょう。

湘南ビジョン研究会は、このミニフォーラムへの参加者を募集しています。7ページ記載の連絡先、またはホームページ（www.shonan-vision.org）からお申し込み下さい。



「鎌倉ライフガード」

「私は山の中にずっと住んでいたので、海との接点が全くありませんでした。だからライフガードはすべてが新鮮で、いつもドキドキしています」

そう話す梶谷さんは、今や日焼けした肌にショートカットがよく似合う、すっかり「海の人」。女性ならではの視点でビーチに気を配る姿が板についている。

「大学入学後、同級生に誘われて『AZURE OCEAN』に顔を出したのがライフセービングとの出会いです。私は中学、高校と個人競技（陸上競技）をやっていましたので、安全という目的のためにみんなで一致団結するライフセービングクラブの一体感みたいなのが凄く刺激的でした。海の周りなので少し自由な雰囲気があって、でも自分に厳しく、というのが私には合っているなと思いました」

◆「鎌倉ライフガード」は1989年創立。鎌倉市内3つのビーチ（材木座、由比ヶ浜、腰越）を担当している。メインとなる「パトロール活動」のほか、ビーチクリーンなどの「地域活動」、ライフセービングや救急法の競技会に出場する「大会参加」、海辺の安全教室などを通じてライフセービング活動の普及を図る「ジュニア・教育活動」、スキル向上のための日々の「トレーニング」の5つを活動の柱としている。

——自然が相手の仕事。常に危険と隣り合わせという意識はありますか？

「鎌倉ライフガード」に入って最初の夏のことですが、朝、海のコンディションを確認するために入った沖に向かうカレントにハマって、あっという間に流されたことがあります。台風のうねりで波が高く、体力を消耗してしまって岸に戻れなくなっちゃったんです。カレントが危ないというのは知識としては理解していましたけど、実際に自分がパニック寸前にまでなるとは思ってもいませんでした。その時は先輩がレスキューボードで来てくれたので、なんとか無事救出されました」

海での暮らしを日々楽しむ方々をゲストに招く「海楽（かいらく）主義」。5回目はサーフライフセービングクラブ「鎌倉ライフガード」の梶谷友恵さん(21)にお話をうかがいました。自らを「山っ子だった」という梶谷さん。陸上競技からライフガードに転身した経緯や日頃の活動で心がけていること、これからの目標などを語っていただきました。

梶谷友恵さん

♥梶谷 友恵（かじたに・ともえ） 1990年11月7日、神奈川県山北町生まれ。山北町立山北中学校、私立相洋高校卒。神奈川大学経済学部4年生。中学で陸上競技を始め、中3時に100mハードルで全日本中学校通信陸上競技大会出場。神奈川大学では1年時からライフセービングクラブ「AZURE OCEAN」に所属。

ライフガードは筋肉ムキムキ、マッチョなイメージがありますが(笑)、そんなことないです



ある時、海水浴客が2人、溺れて行方不明になった。懸命に捜索したものの、残念ながら2人は3時間後に遺体で発見された。

「ライフガードは全員レスキューボードで、消防や海保も出動してヘリや水上バイクで必死に探したのですが…。2名が亡くなるという事故を経験し、ライフガードとして事故を未然に防ぐことの大切さを学びました」

——日頃はどんなトレーニングを？



「海水浴場での業務時間は9時から夕方5時までです。その前、朝6時半から朝練、業務後の午後6時頃から夕練をしています。『ラン&スイム』というもので、海に入って泳いで陸に走って上がる、を何本も繰り返します。男女にメニューの違いはありません。走る、泳ぐという基本ができない限りライフガードは仕事になりませんからね。正直、しんどくて心が折れそうになる時もあります(笑)。『練習でできないことは本番でもできない』という先輩の言葉をいつも思い出しながら自分を盛り上げています。冬でもウェット着て、毎週土日は海に入ります」

泳力や体力がものをいう仕事。女性であることに加え、梶谷さんはライフガードになるまで水泳経験があるで



かった。そのハンデを克服するため、様々な工夫をしているという。

「パワー系はきついです。特に人を引っ張るのは。体格差、体力差を埋めるにはどうすればいいか、いつもイメージしています。例えばレスキューボードを扱うにしても、いかに体全体を使って浮力を上手に調節するか、とかですね。あとは声掛け、特にお子さん連れのご家族には声掛けをしっかりやるようにしています。事故を未然に防ぐことが最も大切なことです。それからパトロールの時はなるべくすべての海水浴客

にあいさつするようにしています。いきなり注意するといやな気分にさせてしまうので、1回目はあいさつと海のコンディションの説明だけをして、2回目以降に注意を受け入れてもらいやすいようにしています」

——大学4年生。将来を見据えると?

「就職が決まりました。来年4月からIT系企業の営業職に就きます。もちろんライフガードの活動は続けます。子どもたちへの教育、指導をしていきたいと思っています。日本は海に囲まれているのに、子どもたちが海に触れる機会が少ないように思います。海は危険もあるけど、安全な海の楽しみ方、遊び方を教えていきたい。すべての子供が1年中いつでも海で楽しんでくれるようになってほしいと思います」

——最後にここ湘南に住む人たち、あるいは海水浴に来る人たちにメッセージを。

「日本はまだまだライフガードの認知度も立場も低いです。しかも夏限定なんです。今後は1年を通してライフガードが職業として成り立つようになればいいなと思います。それからライフガードに興味がある方へ。ライフガードは筋肉ムキムキ、マッチョなイメージがありますが(笑)、そんなことないです。体力、泳力に自信がなくても、あなたにできることがきっとあるはずです。みなさん個人個人の強みを生かして一緒に海を守っていきましょう」

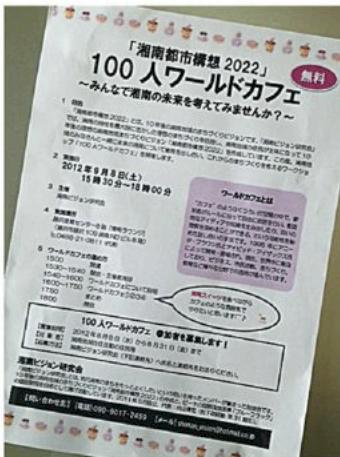
9月8日「100人ワールドカフェ」やります！

私たちが目指す理想のまちづくり「湘南都市構想2022」

「湘南ビジョン研究会」は、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」を地域の住民とともに策定しています。

湘南スイーツを食べながら ワイワイ意見を出しあいましょう

第5回策定会議は、8月8日(水)に開催しました。今回は学者、研究者、行政職員、教育者等の有識者7人にアドバイザーとしてご参加いただき、前半は4つの分科会に分かれて専門的なご意見をいただきながら議論しました。後半も7人の有識者からご講評をいただき、今後の策定作業における課題等をメンバー全員で共有しました。現在、4つの分科会で合計39本の政策案(プロジェクト)が出て



います。来年1月の完成に向け、全員で協力し合って着実に前へ進み続けたいと思います。

第6回会議は9月8日(土)に「みんなで湘南の未来を考えよう！」をテーマに『100人ワールドカフェ』を開催します。ワールドカフェとは、「カフェ」のようなくつろいだ空間の中で自由に会話をを行い、創造的なアイデアや知識を生み出す話し合いの手法です。当日は、お子様からご高齢の方まで、男女問わず、みんなで湘南スイーツを楽しみながら湘南の未来を語り合いたいと思います。

先着100名で定員に達し次第締め切りとさせていただきます。ぜひぜひご参加ください！

みんなで湘南の未来を考えてみませんか？

- 【日時】 9月8日(土)15:30~18:00、無料
【場所】 藤沢産業センター8階「情報ラウンジ」
(藤沢市藤沢109湘南N Dビル8階)

【申し込み方法】 湘南ビジョン研究会へ氏名と連絡先をお送りください。

【電話】 090-9017-2459

【メール】 shonan_vision@hotmail.co.jp

きまぐれおしゃべり処

Dicky'o

ディキオ

困ったな…
ご新規のお客さん、オレ弱いんだよな。

人呼んで「藤沢一の優良企業」。それがこの「Dicky'o」だ。それもそのはず、今年オープン13年目のこのお店は過去12年、年間売り上げがすべて右肩上がり。月単位でもほぼ毎月前年比プラスだというから恐れ入る。

「ホントにちょっとずつ、微増微増ですけどね」と謙そんするのは店長の前野孝さん(37)。大きな予約の時などにホールの手伝いを入れる以外は開店以来、25席あるこのお店をずっと1人で切り盛りしてきた。「いいことも悪いことも全部ダイレクトだから、やっていて楽しいよ」

お品書きはない。あるのは日替わりのボードだけ。魚は父が勤務する鮮魚店で仕入れるため、毎日その日一番のものが手に入る。仕入れた食材は基本的にその日のうちに使い切るという。「だってウチ冷凍庫ないから」。その上、安い。ボードは「い・ろ・は」に分類されており、「い」は驚きの300円。刺身類中心の「ろ」が500円、「高級品」の「は」でも800円だ。

「品数は多くないけど、材料さえあれば何でもつくりますよ。例えば『鶏のおろしポン酢』があるなら、そのチキンをマスタードソースでくれとか親子丼風にしろとか。お店を始めた頃、近くの和食店の方たちに鍛えられたから。メニューにある素材使って別の料理してみろって毎日毎日。しんどくて胃かいようになったよ」

不思議なのはこのDicky'o、これだけ流はっているにも関わらず全く目立たない。看板1つ出していないため、隠れ家というより本当に



●刺身の3点盛りと白磚の隠れ過ぎちゃってる入り口



お通しなし、アルコールはすべて500円。ドリンクのみも大歓迎だそうで、ちょっと1杯どうですか？初めての方はどんどん前野さんに話しかけてあげてください。喜びますよ！

きっちり食事を楽しみたい人はコースで予約をしてほしいとのこと。オススメは平日は10人から、金、土でも15人から可能なお店の貸し切りだ。料金は飲み放題付きで4000円からだが、特筆すべきは飲み放題2時間半ラストオーダーの貸し切り3時間という時間の長さ。料理は日によって異なるが、「この間は先付にサラダ、刺身、焼き物、揚げ物に鶏のハーブ漬け。締めに冷やし中華出しちゃった」とか。店内には本物の囲炉裏もあって、冬は備長炭を使った囲炉裏鍋も楽しめる（予約のみ）。

◆営業時間 18:00~26:00

日曜定休 藤沢市南藤沢23-2 マタリ渡辺ビル5階

0466-50-2525

※藤沢駅南口徒歩2分。OPA裏。



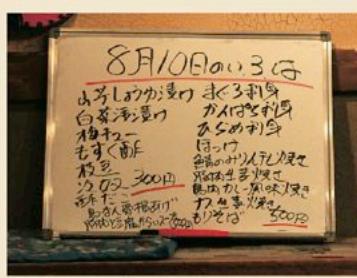
「笑顔には自信あり」と自画自賛する店長の前野さん

隠れちゃっているのだ。「本当のご新規さんは…年2組が過去最高（笑）。あ、でも今年はすでに2組来てるから、記録更新の大チャンス」。誰かが新しい人を連れてきて、その人がまた別の人を連れててくれる、の繰り返しなんだとか。「ずっと前、ヨコハマの某有名情報誌に付き合いで載せた時、キャンペーンじ

ゃないけど刺身3点盛りをサービス価格で1ヶ月間は毎日常に出せるようにしておいてくださいねって言われたんだよ。そうしたらその1ヶ月で2皿しか出なかった（笑）。よく見たらその雑誌にはウチの住所、マタニビル6階（本当はマタリビル5階）って。そりゃ来るわけないよ（笑）」

この「美味しい湘南」はフェイスブックやHPにも掲載されることを伝えると、「ご新規のお客さん、オレ弱いんだよな～。困ったな…」と“おしゃべり処”と銘打ちながら、実は口下手であることを露呈していた。

この「美味しい湘南」はフェイスブックやHPにも掲載されることを伝えると、「ご新規のお客さん、オレ弱いんだよな～。困ったな…」と“おしゃべり処”と銘打ちながら、実は口下手であることを露呈していた。



この日の「い・ろ・は」は全品300円と500円